

道徳科における GIGA 端末を活用した授業展開



日 時：令和3年10月5日（火）13：20～14：10

場 所：多目的ホール

対 象：3年1組生徒24名

授業者：長澤 絵美 教諭

1 鶴岡市立温海中学校の特徴 学級数：8学級、生徒数134名、教員数28名

令和2年度より山形県教育委員会「ICT活用による学習活動充実の推進事業」委託、鶴岡市教育委員会より「ICT教育推進拠点校」の指定を受けている。授業でのICT活用につなげるため校内研修として①ICT活用重点単元作成、②ロイロノート等の教材研究と動画の教員間の共有化、③10分程度の校内ちょこっと研修会といった取り組みを実施している。

一人一台タブレット、タブレットペンを使用。グループウェアはMicrosoft Teams、ロイロノート、SKYMENU Cloud。各教室にWi-Fiが設置され、短焦点プロジェクタを5台導入している。

2 研究主題

主体的に学び、自分の考えを表現できる、心豊かな生徒の育成 ～ICTを活用した探究型学習～

3 主題名・題材について

主題名：「自他の生命の尊さ」【内容項目D-（19） 生命の尊さ】

（1）題材について 資料名：「臓器ドナー」（「中学道徳『あすを生きる3』日本文教出版）

本教材は、臓器提供意思表示カード等をとおして、生命の尊さや価値観を深く考えさせるものである。今回は「脳死後」に絞って取り上げる。導入の段階で「脳死」の状態を押さえ、それに伴う「臓器提供」について考えを深めさせたい。「臓器提供」に賛成か、反対かではなく、自分の大切な人が脳死になってしまったら、どう判断するのか、答えのない問いを自分の価値観に照らし合わせて考え、自身と向き合い、仲間の考えを受け入れながら、生命の尊さを感じさせたい。

4 研究主題と本時の授業との関連

① 主体的な学びができる生徒を育成するための工夫

臓器提供について、自身の臓器を提供する場合と親が提供を希望している場合の両面から考えさせる。自分の考えの明確化のため、シンキングツールの1つである座標軸（指導案上ポジショニングと表記）を活用する。

② 自分の考えを深めることができる生徒を育成するための工夫

ポジショニングの理由をそれぞれ（自身・親）タブレットに入力する。最初の考えを①、授業の終末時の考えを②とし、自身の考えの変容が見える化し、終末の振り返りで自分の考えをまとめさせる。

③ 対話的な学びができる生徒を育成するための工夫

クラス全員のポジショニングの位置をスクリーンに表示する。自分のポジショニングと見比べながら、特に自分の親が希望していた場合についての意見を自由に交流させ、自身の考えを深めさせる。また、臓器提供を悩む理由をグループで話し合うことで、命の問題は誰もが悩むことであり、答えはないことをつかませる。

5 主に活用した機器・コンテンツ

- ・ 一人一台タブレット
- ・ 大型提示装置（プロジェクタ）
- ・ ロイロノート

6 本時の指導

(1) 本時のねらい

臓器提供という現代的な課題をとおして、生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえのないものとして尊重しようとする心情を育てる。

(2) 評価判断材料について

臓器提供について自分の考えを持ち、仲間の考えを受け入れながら、より生命に対する畏敬の念を深め、尊重しようとしているか、振り返りの記述から判断する。

(3) 指導過程

時間※ ¹	●主な学習活動	○ICT活用ポイント、留意点	使用機器 コンテンツ	情報活用能力※ ²
導入 3分 一斉 A 1	●①臓器提供について確認する。	○教員が大型提示装置で臓器提供とドナーカードについて振り返る。	・大型提示装置	・A 2 ② b ステップ 1 情報の活用を振り返り、良さを確かめること
展開 40分 一斉 A 1 個別 B 3 協働 C 1 C 2	●②自分の臓器提供について考える。  ポジショニング ●③教科書内容をつかむ。 ●④親の臓器提供について考える。  ●⑤補足資料提示。 ●⑥命について考える。	○生徒はロイロノートで自分の臓器提供について Yes、No のポジショニングし、理由をシートに入力して提出する。 ○教員が全員のポジショニングを大型提示装置で表示。 ○範読資料を送信、音声を読む。 ○生徒は自分の臓器提供と同様に親が臓器提供を希望していた場合のポジショニングシートに入力して提出する。 ○教員が全員のポジショニングを大型提示装置で表示。 ○生徒はタブレットを持ち、理由を中心に、意見交換する。 ○臓器提供受けた人の動画視聴。 ○臓器提供を悩むのはどうか、4人グループで話し合う。その後、ロイロノートを共有しながら発表会を行う。	・大型提示装置 ・1 人一台タブレット ・ロイロノート	・A 1 ① a ステップ 4 キーボードなどによる十分な速さで正確な文字入力 ・A 2 ① f ステップ 1 情報の大体を捉える方法 ・A 2 ① h ステップ 1 相手に伝わるようなプレゼンテーションの方法 ・B 1 ステップ 2 情報の全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見出す。
まとめ 5分 B 3	●学習の振り返りをする。	○本日の学習を踏まえて②のポジショニングを再度行う。振り返って考えたことを入力し、ポートフォリオとして提出し、評価とする。	・1 人一台タブレット ・ロイロノート	・C 1 ② c ステップ 1 情報の活用を振り返り、良さを発見しようとする。

※1 本欄におけるアルファベットおよび数字で示した記号は、文部科学省「学びのイノベーション事業報告書 学習場面に応じた ICT 活用事例」に基づく表記を示す。

※2 本欄におけるアルファベットおよび数字で示した記号は、文部科学省「【情報活用能力の体系表例（IE-School における指導計画を基にステップ別に整理したもの）】(令和元年度版)全体版」に基づく表記を示す。

7 県教育センター所感

- 授業全体で、生徒がロイロノートの提出等操作方法に慣れており、文字入力も授業で差し支えないレベルにあることが伺えました。ICT活用した授業のベースとなる基本的な操作ができており、本時のねらいを達成するためにICT機器を自然と利用しており、普段使いができていたと感じました。
- 展開で、意見交換する際のタブレットを持ち寄り、グループを作り、代表がロイロノートに意見をまとめ、最後に振り返りを提出する一連の学習活動がスムーズに行われており、ロイロノートがノートの代替として評価の「臓器提供について自分の考えを持ち、仲間の考えを受け入れながら、」につながる過程が見られました。
- 展開で、グループによる意見交換で、TeamsのExcelでクラス全体の意見の共有化を行い、生徒が他者の意見を自分のタブレットで直接確認しながら、意見交換をすると、更に多くの意見について触れることができ、より本時の目標に近づくことになるかもしれません。